



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	〈仮称〉レ・ジェイド掛川南1丁目 新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.6 /5		ふつつ	
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.0 /5		がんばろう	
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつつ 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.6
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①断熱等性能等級4 ③レースカーテンとバルコニーで昼光制御 ④住宅性能評価における劣化対策等級3 ④主要2用途にB以上、Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤生物環境の保全と創出 ⑥敷地内温熱環境の向上 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱等性能等級4 ⑨BEI=0.79 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑬ノンフロン断熱材を採用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳階高2.90m以上 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ ⑳ Q-3 3 3.1 ㉑	ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑳ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑤温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 2 3 3.2 ⑶ LR-3 2 2.2 ⑤	⑵ 生物環境の保全と創出 ⑶ まちなみ景観への配慮 ④ 敷地内温熱環境の向上 ⑤ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レジェイド掛川南1丁目 新築工事	階数	地上15F
建設地	静岡県掛川市南一丁目17番、18番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2020年9月29日
敷地面積	1,584 m ²	作成者	㈱穴工務店東京一級建築士事務所
建築面積	641 m ²	確認日	2020年9月29日
延床面積	7,209 m ²	確認者	㈱穴工務店東京一級建築士事務所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>46 (kg-CO₂/年・92㎡)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア = 2.7		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.7</p>

LR 環境負荷低減性		
LR のスコア = 3.4		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>複数の線が交わり合うダイナミックなデザインとしている。軒天には部分的にブラウンを入れ、モノトーンの外観に住宅らしい温かみと個性を与えている。</p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>専有部について、断熱等性能等級4とし、レースカーテンとバルコニーで昼光制御するなど、室内環境の向上に努めている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>居室部分の天井高を2.5mとし、階高もゆとりをもたせた設計としている。また、空調・給排水配管の更新対策にも配慮し、建物のサービス性能の向上に努めている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>標準的な配慮を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱等性能等級4、建物全体のBEI=0.79とし、省エネルギー性能の向上に努めている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ノンフロン断熱材を採用するなど、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率75%とし、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される